中越地震の支援のあり方を考えるフォーラムを開催

●災害対策室

中越地震の支援のあり方を考えるフォーラムが、５月28日（日）、環境総合館レクチャーホールにおいて、開催されました。本企画は、災害ボランティアの全国ネットワーク組織である「震災がつなぐ全国ネットワーク」が主催、「全国災害救援ネットワーク」が共催、内閣府・全国社会福祉協議会・名古屋大学が後援となっており、本学災害対策室が開催を支援しました。

「何をもって復興かを問う～人間力と地域力」をテーマに掲げ、新潟県中越地震の災害復興に関する話題を中心に、基調講演や分科会など、丸一日をかけて活発な議論が行われました。地域防災・災害対応の最前線で活躍する専門家が全国から集まり、地元の熱心な防災ボランティアや学生も加わって、定員を超える135名の参加がありました。

災害直後の救援は注目を集めても、その後の長い時間を要する被災者の暮らしの再建や地域の復興は忘れられがちであり、災害の経験が風化することが多いといわれています。当日の議論を通して、参加者一人ひとりが、それぞれの立場で中越地震に関心を持ち続けるとともに、次に来る災害に向けて地域で協力して準備をすることの大切さを確認していました。

パネルディスカッションの様子

分科会の様子

本企画が、震災経験のある神戸や新潟ではなく、近い将来に東海・東南海地震による大災害が予測されている名古屋で開催され、全国から多数の参加者を集めたことは、大きな意味があるといえます。被災地で継続的に活動を続ける専門家、グループの経験を、東海地域の住民が将来に活かすための貴重な機会となりました。

第19回防災アカデミーを開催

●災害対策室

第19回防災アカデミーが、５月25日（木）、環境総合館レクチャーホールにおいて、開催されました。防災アカデミーとは、災害対策室が主催する市民向けの防災講演会で、2003年からほぼ毎月開催しているものです。

今回は、勅使川原正臣環境学研究科教授による「鉄筋コンクリート造住宅の耐震性能」と題する講演が行われました。

第19回防災アカデミーの様子

講演では、近代建築物が建てられはじめた明治時代以降に発生した代表的な地震被害が紹介され、それを受けて建築設計基準がどのように変遷してきたか、また建物が地震のときにどのように壊れるのかについても、実物の建物による振動台実験の映像を交えた詳しい説明がなされ、多くの聴衆の関心を集めました。

会場には、あいち防災リーダー会のメンバーとして、地域の防災活動をリードしている方々など、学内外から75名の参加があり、盛況のうちに終了しました。

防災アカデミーでは、地震、火山、水害など様々な自然災害をとりあげています。講演者は、理学・工学など理系の研究者のみならず、心理学・歴史学など文系の研究者も招いており、幅広い視点から災害を学べるユニークな講演会となっています。

詳しくは、災害対策室ホームページ（http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/）をご覧ください。